

# 令和4年産大豆防除情報 No.2

令和4年8月31日  
南筑後農業協同組合 農畜産課  
南筑後普及指導センター

## 生育概況

水稻は、ヒノヒカリ以降の品種で中干し中の7月下旬以降に降雨が少なかった影響で、干し過ぎとなり黄化したほ場が散見されました。

また、飛来性害虫（主にウンカ類）は、葉色の濃いほ場を中心に密度が高くなっています。特に、トビイロウンカがほ場の中で急激に増殖すると坪枯れが発生する場合があります。ほ場巡回に努め、幼虫の時期に防除してください。防除に当たっては、飛散防止対策を徹底し、ほ場に水を溜めてウンカ類を株上部へ移動させ、防除してください。

“ミナミアオカメムシ”の発生が多く確認されています。斑点米による品質低下防止のために出穂後14日頃の防除に努めます。収穫期が近くなって防除を実施する場合は、使用基準の収穫前日数を確認の上、薬剤を選定します。

大豆は、概ね適期に播種が終了し、生育は順調に進んでいます。8月16日からの降雨により、冠水したほ場が一部ありましたが、冠水時間が短く、被害は最小限となりました。今後の降雨に備えて、周囲溝の整備を行いほ場外へ排水を促します。

ハスモンヨトウ、オオタバコガなどの多発生が予想されていましたが、台風の強風や定期的な降雨により幼虫が減少したため、ほ場での発生は少なくなっています。

一方、吸汁性カメムシ類の発生が多いので、注意が必要です。

飛散防止対策を徹底したうえで、下記防除日を参考に防除を実施します。

## 大豆病虫害防除

吸汁性カメムシの防除適期は、1回目が開花20日後頃、2回目が開花40日後頃です。

防除時期	薬剤名	希釈倍率/希釈水量(10a 当り)		使用回数
		ブームスプレーヤー	無人航空機	
9月5日 ～10日 3種混合	プレバソフロアブル5	4000倍/150ℓ	16～32倍/0.8ℓ	2回以内
	キラップフロアブル	2000倍/150ℓ	16倍/0.8ℓ	2回以内
	トップジンM水和剤	700～1500倍/150ℓ	—	4回以内
	トップジンMゾル	—	5倍/0.8ℓ	4回以内
9月25日 ～30日 2種混合	プレオフロアブル	1000～2000倍/150ℓ	8～16倍/0.8ℓ	2回以内
	スタークル顆粒水溶剤	2000倍/150ℓ	—	2回以内
	スタークル液剤10	—	8倍/0.8ℓ	2回以内

薬剤抵抗性の発達を防ぐために、同一薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心がけます。

**防除の際には、農薬適正使用と飛散防止対策を徹底しましょう！**